

写真家が「陸奥」水中慰霊 周防大島沖

眠る戦艦の懐へ



深くなるほど濁りがひどくなる。視界を遮られながらも、船体内部への進入口を捜索するダイバー

将兵1121人「安らかに」



戦時中、海に沈んだ軽船や航空機を撮り続けている写真家、将兵千二百二十一人の霊を慰めた。船体や艦内を撮影し、六月八日爆沈IIを水中慰霊した。六月八日爆沈IIを水中慰霊した。艦内に残る遺品などを捜索した。

田中さんは二十四日、同町伊保田の北四の海域にサボートダイバー四人と潜り、水



沈没地点に到着し、潜水を前にあいさつする田中さん(右端)

田中さんは「視界が一以以下になるなど艦内の撮影は困難だった。大破しているが、魂は安らかに眠っているようだった。あとに残った人がいかに誠意を尽くして慰霊してきたかを感じる」ことができた」と潜水を振り返った。

(高橋洋史、写真も)